

ServerGuide

ServerGuide と Netfinity マネージャー

IBM

ServerGuide

ServerGuide と Netfinity マネージャー

第 1 版 (1999 年 1 月)

原 典 36L9819
ServerGuide
ServerGuide and Netfinity Manager Information

発 行 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当 ナショナル・ランゲージ・サポート

©Copyright International Business Machines Corporation 1998. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1999

目次

第1部 ServerGuide	1
第1章 ServerGuide の紹介	3
機能一覧	4
構成の概要	5
ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストールの概要	6
複数サーバーのセットアップ	6
NOS と対応するパーティション・サイズ一覧	7
構成および NOS のインストール	8
第2章 付属しているアプリケーション	11
アプリケーションのインストール	13
第3章 問題の症状	15

第2部 Netfinity マネージャーのインストール	17
第4章 Netfinity へようこそ	19
Netfinity マネージャーによるサーバーの管理	19
Netfinity マネージャーの資料	20
ロードマップ	20
第5章 システム要件	21
Netfinity マネージャー (OS/2 版) のシステム要件	21
Netfinity マネージャー (Windows 95 版) のシステム要件	22
Netfinity マネージャー (Windows NT 版) のシステム要件	22
第6章 インストール・プログラムの始動	25
第7章 Netfinity マネージャーのインストール	27
第8章 Netfinity データベース・サポート	33
DB2 データベースのサポート	33
Lotus Notes データベース・サポート	39
ODBC データベースのサポート	41
第9章 Netfinity の始動	47
Netfinity サービス・マネージャー	47
Netfinity サービスの説明	48
OS/2 システムで Netfinity の始動を遅らせるには	54
第10章 詳細情報の入手	55

付録A. インストール・オプション	57
自動的にインストールするには	57
カスタマイズしてインストールするには	58

第1章 ServerGuide の紹介

ServerGuide CD には、IBM Netfinity サーバー用に独自に設計された、使いやすいサーバー用のセットアップおよびインストールのプログラムが入っています。ServerGuide は、サーバーのモデルおよび取り付けられているハードウェアのオプションを検出し、それより新しいレベルのシステム BIOS またはマイクロコード (ファームウェア) が ServerGuide CD から利用可能かどうかを通知し、その上で構成プログラムを実行します。多くの場合、ServerGuide がデバイス・ドライバーを自動的にインストールするため、ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストールが、簡単になります。

ServerGuide の特徴

ServerGuide はセットアップを容易にするために、次の機能を提供します。

- ハードウェア検出機能は、必要な構成プログラムを判別します。セットアップおよび構成用のディスクは必要ありません。
- サーバーのモデルおよび検出されたハードウェア・オプションに基づき、ServerGuide は適切なデバイス・ドライバーを提供します。
- ServerGuide には、ご使用の IBM Netfinity サーバー用にテスト済みで、ご使用のサーバーをサポートするデバイス・ドライバーが用意されています。
- ServerGuide は、システム BIOS およびデバイス・ドライバーの更新が簡単にできます。
- ServerGuide セットアップ・プログラムで NOS のパーティション・サイズを変更することができます。
- オペレーティング・システムの最新の修正モジュールが ServerGuide の *Operating System FixPak CD* で提供されます。これにより、それぞれのソフトウェア・ベンダーの Web サイトにアクセスして、修正モジュールをダウンロードしたり、それをインストールする必要がありません。
- *Diskette Factory* および *Book Factory* などのアドミニストレーター・ツールを提供しています。
- 機能性の高いアプリケーション・プログラムを、無料で提供しています。
- ServerGuide の GUI インターフェースは使いやすく、オンラインでヘルプを参照することができます。

システム管理: ServerGuide には *CoPilot ApplicationGuide* も入っており、これより最先端技術を用いたシステム管理ソフトウェアである IBM Netfinity マネージャーを利用できます。

容易な更新: ご使用のサーバーのモデルおよび構成に適応した最新の更新情報を得るには、*CoPilot ApplicationGuide* に入っているプログラムの 1 つである、IBM Update Connector を使用してください。Windows NT Server 4.0 サーバーは IBM HelpCenter サーバーに直接接続して、ご使用のサーバーの BIOS、マイクロコード (ファームウェア)、デバイス・ドライバー、およびアプリケーション・プログラムを更新することができます。NetWare サーバーは、IBM HelpCenter にクライアントから接続して、BIOS およびデバイス・ドライバーを更新することができます (Update Connector を使用するには、インターネットとの TCP/IP 接続が必要です)。

機能一覧

ServerGuide 機能の要約:

注: 機能は各リリースごとに異なる場合があります。更新情報については、オンラインで「概要」を確認してください。

<p>HardwareGuide CD</p> <p>注: <i>HardwareGuide</i> がサポートするのは、IBM Netfinity サーバーだけです。(使用可能な(ブート可能) CD-ROM ドライブが必要です。)</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムの日付および時刻を設定します。 • 取り付けられているハードウェア・オプションを検出し、ServeRAID 構成プログラム (使いやすいウィザード付き) を実行します。 • システム BIOS のレベルを確認して、CD-ROM から新しいレベルが使用可能かどうかを確認します。 • ServeRAID BIOS およびアダプター BIOS (ファームウェア) のレベルを確認して、CD-ROM から新しいレベルが使用可能かどうかを確認します。 • ディスケットを作成せずに BIOS を更新します。 • 拡張システム管理アダプターおよびコントローラー用に BIOS を更新します (一部のモデルのみ)。 • システム区画をインストールします。 <p>SoftwareGuide CD</p> <ul style="list-style-type: none"> • 取り付けられているハードウェア・オプションを検出し、多くのアダプターおよび装置に適したデバイス・ドライバを提供します。 • 評判のネットワーク・オペレーティング・システムを簡単にインストールできます。 <p>注: CD のラベルをチェックして、サポートされている NOS バージョンを確認してください。インストールには、購入した NOS の CD-ROM が必要です。</p>	<p>SoftwareGuide CD (続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複数の Windows NT Server 4.0 および Windows Enterprise Edition 用に、インストール内容を「複製」します。 • 特定のハードウェアおよび NOS のインストールのヒントにリンクするオンラインの README ファイルが含まれています。 <p>Diskette Factory</p> <ul style="list-style-type: none"> • マウスを操作するだけで、IBM Netfinity サーバー用に診断プログラム、デバイス・ドライバ、アダプター、およびその他のディスクを作成することができます。 • テスト済みのデバイス・ドライバが入っています。 • 作成するディスク・イメージの最新バージョンを確認するために、お客様を Web にリンクします (Windows 95、Windows 98、またはいずれかの Windows NT 4.0 NOS、およびインター ネット接続が必要です)。 • タイトルまたはキーワードによる検索機能で、ディスクの検索ができます。 <p>Book Factory</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバーの資料を PDF 形式で表示または印刷できます。(Adobe reader が CD-ROM で提供されます。 Java™ スクリプトをサポートするブラウザが必要です。) • 次のものに関する資料が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - Netfinity サーバー - Netfinity マネージャー - ソフトウェア統合 - クラスタ・システム管理 	<p>Operating System FixPaks CD</p> <ul style="list-style-type: none"> • サポートされる NOS のソフトウェア・ベンダーから、最新の修正モジュールが提供されています。 • CD-ROM から直接インストールするため、ディスクは不要です。 <p>CoPilot ApplicationGuide CD</p> <ul style="list-style-type: none"> • Update Connector、Netfinity マネージャーなど、機能性の高いアプリケーションをインストールします。 • 導入キーは必要ありません。 • アプリケーションを CD-ROM から直接にインストールするため、ディスクは必要ありません。
--	---	--

¹ Java およびすべての Java 関連の商標ならびにロゴは、米国またはその他の国、あるいはその両方における Sun Microsystems, Inc. の商標です。

構成の概要

HardwareGuide を使用すれば、セットアップ・ディスクは必要ありません。どの IBM Netfinity サーバーでも構成することができます (ただし、始動可能 (ブート可能) な CD-ROM ドライブが必要です)。*HardwareGuide* はサーバーのモデルを検出し、必要なウィザード・インターフェースを用いて、必要な ServeRAID またはシステム構成プログラムを起動します。

ServerGuide を使用した一般的なハードウェア構成

- *HardwareGuide* CD を始動すると、使用する言語、お住まいの地域、および使用するキーボードのレイアウトを入力するようにメッセージが表示されます。この情報は、ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストール時に使用するために保存され、*SoftwareGuide* に渡されます。
- 「構成方法」画面が表示されたら、次の 2 つの方法のどちらかを選択して、構成プログラムを実行することができます。
 - エキスプレス・パスは、検出されたハードウェアに基づいてサーバーに必要なプログラムを実行します。各プログラムの説明は、開始する前に画面に表示されます。
 - カスタム・パスは、ご使用のサーバーで使用可能なすべてのプログラムを表示し、実行するプログラムを選択することができます。各プログラムの説明は、開始する前に画面に表示されます。
- 「日付と時間の設定」画面が表示されるので、これらの設定を行うためにセットアップ (F1) に進む必要はありません。
- ServerGuide は、サポートされるオプションに関して、サーバーの BIOS およびマイクロコード (ファームウェア) のレベルをチェックしてから、CD-ROM を調べ、そのサーバー用により新しいレベルの BIOS が使用可能かどうかを確認します。使用可能な新しいレベルの BIOS がある場合は、BIOS の更新をするようにメッセージが表示されます。
- 構成手順を通して構成のサポートをする、構成プログラムが起動します。
- *HardwareGuide* は構成記録を表示して、必要なプログラムがいつ完了したかが分かるようにします。これで、NOS をインストールする準備ができました。

注:

1. プラグ・アンド・プレイ・アダプターは自動的に構成されます。レガシー・アダプターあるいは IBM 社製以外のアダプターでは、スイッチ設定の変更、デバイス・ドライバーの追加、および NOS インストール後のアダプターの取り付けが必要な場合があります。アダプターに付属の説明書を参照してください。
2. ご使用のサーバーの診断プログラムは、ROM (Read Only Memory) またはそのサーバーに付属の診断プログラム CD 上にあります。

互換性のあるアダプターのリストが必要な場合は、IBM *ServerProven* の Web サイト (<http://www.us.pc.ibm.com/compat>) をご覧ください。

Web サイトの詳細リストについては、サーバー・ライブラリーの『ヘルプ情報の入手』を参照してください。

ネットワーク・オペレーティング・システム (NOS) のインストールの概要

SoftwareGuide を使用すると、NOS のインストールに必要な手順を簡略化することができます。これは *ServerGuide* がハードウェアおよびインストールする NOS に基づいて、必要なデバイス・ドライバーを提供するためです。

次に *ServerGuide* における NOS のインストール手順を簡単に説明します。

1. *SoftwareGuide* CD を始動して、「オペレーティング・システムのインストール」をクリックすると、インストールするバージョンを入力するように表示されます。ここで、購入した NOS の CD-ROM が必要です。
2. 「インストールされたアダプター」画面では、*ServerGuide* のハードウェアの検出機能がサーバーのモデル、ハード・ディスク用アダプターまたはコントローラー、およびネットワーク・アダプターを表示します。この情報に基づいて、*ServerGuide* は *Diskette Factory* から必要なデバイス・ドライバーを見つけます。この情報は保管されて NOS のインストール・プログラムに渡されます。
3. 「パーティション」画面では、必要に応じて *ServerGuide* のデフォルトのパーティション・サイズを使用しても、必要なパーティション・サイズを指定してもかまいません。
4. 「インストール・ディスクット」画面では (ディスクットからインストールするように選択した場合にのみ表示)、*ServerGuide* は、作成するオプション・ディスクットのほかに、作成する必要があるディスクットを表示します。

注: 作成可能なディスクットは、取り付けられているアダプターまたはコントローラーに適したデバイス・ドライバー・ディスクットまたは構成ディスクットです。

5. 「インストールの開始」画面が表示されれば、サーバーは NOS をインストールする準備が完了です。ここで、購入した NOS の CD-ROM を挿入してサーバーを再始動するようにプロンプトが表示されます。この時点から、NOS 自身が制御を行い、インストールを実行および完了します。

複数サーバーのセットアップ

ServerGuide は、複数の Windows NT Server 4.0 システムおよび Windows NT Server 4.0 Enterprise Edition システムをセットアップする手助けをします。インストール時に「複製インストール」を選択するだけです。複数のサーバーへインストールするためにサーバー名、ドメイン名、およびその他の必要な情報を入力するようにプロンプトが表示されます。*ServerGuide* はその情報をディスクット (複製インストール・ディスクットと呼ばれます) にコピーします。

ServerGuide と一緒に複製インストール・ディスクットを使用して、必要な数のサーバーをセットアップします。また、サーバーの 1 つに別のオプションを取り付ける場合は、複製インストール・ディスクットの内容を変更することができます。*ServerGuide* には、Netfinity サーバー用の純正デバイス・ドライバーが入っているため、インストールにかかる時間を節約することができます。

NOS と対応するパーティション・サイズ一覧

次の表には、ServerGuide が作成するパーティション・サイズが、サポートされる NOS 別に記載されています。デフォルトのパーティション・サイズは、「パーティション」画面から簡単に変更できます。

注: NOS のバージョンについては、SoftwareGuide CD のラベルをご覧ください。

NOS	デフォルトのパーティション	パーティション (最小)	パーティション (最大)
IntranetWare 4.11	15 MB (DOS の場合)	15 MB (DOS の場合)	2 GB (DOS の場合) 注: さらに 90 MB の空き容量が必要です。
NetWare 5	50 MB (DOS の場合)	50 MB (DOS の場合)	2 GB (DOS の場合) 注: さらに 500 MB の空き容量が必要です。
OS/2 Warp Server	500 MB	500 MB	2 GB 注: OS/2 拡張インストール・パスを選択した場合は、パーティションが大きくなる可能性があります。
すべての Windows NT 4.0 ネットワーク・オペレーティング・システム	以下の注を参照	300 MB	4 GB 注: パーティションをさらに大きくする場合は、Microsoft 社の資料を参照してください。

注: Windows NT 4.0 ネットワーク・オペレーティング・システムでは、300 MB以上のパーティションがハード・ディスクに設定してある場合は、それがデフォルトのパーティションになります。パーティションを設定していない場合、またはパーティションが 300 MB 未満の場合は、デフォルトのパーティションが、ハード・ディスク上に設定できる最大サイズです。

構成および NOS のインストール

次の手順に従って、ハードウェアの構成、NOS のインストール、およびアプリケーション・プログラムのインストールを行ってください。

はじめにお読みください

- ServerGuide が始動しない場合は、15ページの第3章、『問題の症状』を参照してください。
- ServeRAID 構成プログラムに関する情報は、Netfinity サーバ・ライブラリー の中、または ServeRAID オプションに付属の説明書に記載されています。

- 1 ハードウェアを構成するには、*HardwareGuide* CD (CD1) を挿入してから、サーバーを再始動します。使用する言語を選択してから、画面の指示に従います。
- 2 NOS をインストールするには、*SoftwareGuide* CD (CD2) を挿入してから、サーバーを始動します。ServerGuide はサーバーに必要なデバイス・ドライバをインストールします。

サポートされる NOS のバージョンについては、*SoftwareGuide* CD のラベルをご覧ください。ここで、購入した NOS の CD-ROM が必要です。

重要

NOS のインストールに ServerGuide を使用しない場合は、9ページの『ServerGuide を使用しない場合の NOS のインストール』を参照してください。

- 3 「README」をクリックして、NOS およびアダプターのインストールに関するヒントを参照してください。
- 4 「メイン・メニュー」で、「オペレーティング・システムのインストール」をクリックします。画面の指示に従って、インストールを完了します。? をクリックすると、どの画面からもヘルプを表示できます。

NOS のインストールが完了したら、必ず 9ページの『追加プログラムを使用したサーバー・パフォーマンスの向上』を参照するようにしてください。

ServerGuide を使用しない場合の NOS のインストール

サーバーのハードウェア構成の終了後、ServerGuide を使用せずに、NOS をインストールする場合は、そのシステム独自の NOS のインストールの手順およびデバイス・ドライバーをインストールする必要があります。

最新の NOS のインストール手順およびデバイス・ドライバーは、次のワールド・ワイド・ウェブ (WWW) からダウンロードすることができます。

<http://www.pc.ibm.com/support>

- 1 「**IBM Server Support**」をクリックします。
- 2 サーバーのモデルとマシン・タイプを選択します。
 - デバイス・ドライバーをダウンロードするには、「**Downloadable Files**」をクリックします。
 - NOS のインストール手順をダウンロードするには、「**Software Information.**」をクリックします。

追加プログラムを使用したサーバー・パフォーマンスの向上

ServerGuide には、追加ソフトウェアが付属しており、サーバーのインストールを手助けします。

NOS の修正モジュール

ServerGuide は、各 NOS のソフトウェア・ベンダーによって提供された最新の NOS の修正モジュールが含まれています。したがって、Web サイトから最新版をダウンロードする必要はありません。最新版をインストールするには、ServerGuide の *Operating System FixPaks* CD のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。

アプリケーション

ServerGuide CD には、導入キーを必要としない各種の機能性の高いアプリケーション・プログラムが含まれています。これらのアプリケーションの一部には、次のものがあります。

- IBM Update Connector
IBM HelpCenter サーバーに接続して、ご使用のサーバーの BIOS、マイクロコード (ファームウェア)、デバイス・ドライバー、およびアプリケーションの最新版を確認します。
- IBM Netfinity マネージャー
最先端技術を使用したシステム管理ソフトウェアです。
- IBM ServeRAID プログラム
管理および監視機能を備えています。

詳細については、11ページの第2章、『付属しているアプリケーション』を参照してください。

第2章 付属しているアプリケーション

次に、ServerGuide に付属しているアプリケーションを示します。

Web サイト・アドレスは *Netfinity* サーバー・ライブラリーの『ヘルプ情報の入手』をご覧ください。

アプリケーション・プログラム	サポートする NOS	説明
IBM Update Connector	<ul style="list-style-type: none"> すべての Windows NT 4.0 NOS NetWare クライアント 	BIOS、デバイス・ドライバー、およびアプリケーションの最新版をダウンロードするために、IBM HelpCenter サーバーに接続します。
IBM Netfinity マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> すべての Windows NT 4.0 NOS OS/2 NetWare クライアント 	完全システム管理ソフトウェアです。
Norton Antivirus	<ul style="list-style-type: none"> すべての Windows NT 4.0 NOS 	ウィルスからデータを保護します (これは OEM パージョンです)。
IBM AntiVirus	<ul style="list-style-type: none"> OS/2 	ウィルスからデータを保護します。
IBM ServeRAID Programs	<ul style="list-style-type: none"> NT Server 3.51 すべての Windows NT 4.0 NOS OS/2、NetWare 	オペレーティング・システムのインストール後に RAID コントローラーを監視および管理します。13ページの『IBM ServeRAID プログラム』を参照してください。
IBM Cluster Systems-Management	<ul style="list-style-type: none"> すべての Windows NT 4.0 NOS 	サーバー・クラスター環境を構成、管理、および監視します。
IBM Network Station Manager	<ul style="list-style-type: none"> すべての Windows NT 4.0 NOS 	ネットワーク・コンピューターを容易に管理できます。
APC PowerChute Plus	<ul style="list-style-type: none"> NT Server 3.51 すべての Windows NT 4.0 NOS OS/2 	APC バッテリー・バックアップ用ソフトウェアです (Netfinity マネージャーが必要です)。
Adaptec EZ SCSI Utility Program	<ul style="list-style-type: none"> NT Server 3.51 すべての Windows NT 4.0 NOS 	SCSI 装置 (CD プレーヤー、フォト CD ビューアー、QuickScan など) を容易に接続および管理できます。
Advanced System Management Processor Device Drivers	<ul style="list-style-type: none"> すべての Windows NT 4.0 NOS OS/2 	広範囲のシステム管理および監視機能を提供するデバイス・ドライバーです。
Advanced System Management PCI Adapter Device Drivers	<ul style="list-style-type: none"> すべての Windows NT 4.0 NOS OS/2 	広範囲のシステム管理および監視機能を提供するデバイス・ドライバーです。

表 2 (2/2). アプリケーション		
アプリケーション・プログラム	サポートする NOS	説明
Diskette Factory	<ul style="list-style-type: none"> • Windows 95 および 98 • すべての Windows NT 4.0 NOS • OS/2 	CD-ROM または Web からサポート・ディスクットを作成します。デスクトップ上にランチ・アイコンをインストールします(OS/2 バージョンは Web から利用できません)。

アプリケーションのインストール

次の手順に従って、ServerGuide からアプリケーションをインストールしてください。手順は、各 CD のラベルにも印刷されています。

- 1 インストールしたいアプリケーションが入った *CoPilot ApplicationGuide* CD を挿入します。
- 2 次のオペレーティング・システム別の説明に従います。(x は CD-ROM ドライブ)
 - OS/2 Warp Server:
コマンド・プロンプトから、x: と入力して、**Enter** キーを押します。次に、**SCOS2** と入力し、**Enter** キーを押します。
 - Windows NT Server 3.51:
「ファイル」、「実行」の順にクリックして、x:¥SCW95 と入力し、**Enter** キーを押します。
 - Windows 95、Windows 98、およびいずれかの Windows NT 4.0 オペレーティング・システム:
プログラムは自動的に開始します。自動的に起動されない場合は、「スタート」、「実行」の順にクリックして x:¥SCW95 と入力し、**Enter** キーを押します。
 - NetWare、IntranetWare、および UnixWare クライアント:
上記の手順の中から、使用しているオペレーティング・システムに関するものに従います。
- 3 メニューが表示されたら、インストールするプログラムを選択し、「インストール」をクリックします。

IBM ServeRAID プログラム

IBM ServeRAID Administration and Monitoring Program は、Windows NT Server 3.51、すべての Windows NT 4.0 NOS、OS/2、および NetWare をサポートします。

- Windows NT NOS 4.0 をインストールしている場合は、ServeRAID Administration and Monitoring Program を ServerGuide の *ApplicationGuide* CD から直接インストールします。
- OS/2 または NetWare をインストールする場合は、*Diskette Factory* から「*IBM ServeRAID Administration and Monitoring Program*」ディスクットを作成する必要があります。
- サポートされるオペレーティング・システム用に IPSSSEND および IPSMON 拡張コマンドライン・プログラムをインストールするには、*Diskette Factory* から「*IBM ServeRAID Command Line Programs*」ディスクットを作成する必要があります。

— プログラムについて: —

ServeRAID プログラムのインストールおよび使用方法に関する詳しい情報は、*Netfinity* サーバー・ライブラリーの『*ServeRAID Information*』または *ServeRAID Installation and User's Guide* に記載されています。

第3章 問題の症状

ここでは、ServerGuide の問題の症状とトラブルシューティングのヒントを紹介します。

1962 POST error (オペレーティング・システムが見つかりません。)

このエラーは、最初のセットアップ中に起こると思われます。他の POST エラーが表示される場合は、ハードウェアのエラーです。Netfinity サーバ・ライブラリーの『ハードウェア情報』の問題判別の項を参照してください。

この表の左の欄にある症状から、該当するものを見つけてください。その問題の解決方法が、右の欄に記載されています。

セットアップ	処置
HardwareGuide または SoftwareGuide が始動しない	<ul style="list-style-type: none">HardwareGuide がそのサーバをサポートしているか確認します。HardwareGuide は、始動可能 (ブート可能) な CD-ROM ドライブを装備したすべての Netfinity サーバをサポートします。始動 (ブート) ドライブの設定を変更した場合は、CD-ROM ドライブが始動順位の中で最初になっているか確認します。複数の CD-ROM ドライブを取り付けている場合は、1 台のドライブだけを、プライマリー・ドライブとして設定してください。そのプライマリー・ドライブから CD-ROM を開始します。
ServerRAID プログラムが、取り付けられたすべてのドライブを表示できない。または、NOS をインストールできない。	<ul style="list-style-type: none">SCSI ID や IRQ 割り当てが重複していないことを確認します。ハード・ディスク・ドライブが正しく取り付けられていることを確認します。
SoftwareGuide プログラムが連続的にループする。	ハード・ディスク上の空き容量を、さらに増やします。
ServerGuide が NOS の CD-ROM を始動しない。	使用している NOS の CD-ROM が ServerGuide でサポートされているかどうか確認します。サポートされる NOS バージョンのリストについては、SoftwareGuide CD のラベルを参照してください。
Book Factory	処置
Book Factory CD で資料を表示できない。Web ブラウザー・ウィンドウがブランクになる。または「関連するファイルがありません。」というメッセージが表示される。	Web ブラウザーが、デフォルトで Java スクリプトをサポートしているか確認します。
Book Factory CD で資料を表示できない。「プラグインがロードされていません。」というメッセージが表示される。または文字が判読できない。	Adobe reader (Book Factory CD から入手できます) がインストールされているか確認します。
Diskette Factory	処置
「タイムアウト」または「ホスト名が違います。」というエラーが表示される。	FTP を介してインターネットに直接接続したか確認します。

第2部 Netfinity マネージャーのインストール

第4章 Netfinity へようこそ

Netfinity マネージャーは、ネットワーク内のハードウェア・システムを管理する機能を強化する目的で設計された分散アプリケーションのグループです。Netfinity マネージャーは柔軟性のあるモジュラー設計を採用しており、これによりさまざまなシステムの目的に沿ったインストールを可能にしています。このようなインストール構成は、それぞれが一連の Netfinity マネージャー・サービス群を提供しています。これらのサービスによって、機能性の高い多種多様なシステム管理および監視機能をローカルに実行することができます。

Netfinity マネージャーには、優れたハードウェア・システム管理機能があります。たとえば、Netfinity マネージャーまたは Netfinity クライアント・サービスを実行している、ネットワーク上のすべてのシステムへのアクセスなどです。Netfinity マネージャーには、標準 Netfinity クライアント・サービスの他に、両方向ファイルおよびディレクトリー転送 (NetWare 用 Netfinity クライアント・サービスを実行しているシステムでは使用不可)、リモート画面捕そく (スクリーン・ビュー)、およびリモート・コマンドライン・セッション (リモート・セッション) があります。さらに、Netfinity マネージャーによって、システム情報ツール、システム・プロファイル、ソフトウェア・インベントリー、およびシステム・モニターによって収集されたデータを、DB2、Lotus Notes、または SQL に、あるいは Open DataBase Connectivity (ODBC) データベースを介した DB2 にエクスポートすることができます (ODBC エクスポートは、Windows NT システムでのみ利用可能)。また、Netfinity マネージャーによって、一部のサービスをスケジュールされた日時に開始させることができ、システム管理の単純化および自動化を図ることができます。

Netfinity マネージャーには、さらに、2 つの優れた機能があり、これらの機能によって、管理システム・ネットワークに接続されていないシステムから Netfinity マネージャー・システムおよび管理システム・ネットワーク内にあるすべての Netfinity マネージャー・システムにアクセスすることができます。

- シリアル接続制御

シリアル接続制御サービスを使用すると、Netfinity マネージャー・システムのモデムからモデムを装備しているどの Netfinity マネージャー・システムとも接続を確立することができます。これによって、Netfinity マネージャーは、接続したリモート・システムが初めから管理対象のシステム・ネットワークの一部であった場合と同等に、すべての Netfinity マネージャー・サービスを利用できるようになります。

- Netfinity マネージャー (Web 用)

Netfinity マネージャー (Web 用) によって、インターネット接続と WWW ブラウザーをもつ任意のシステムを使用し、インターネットを通じて Netfinity マネージャー・システムにアクセスし、そのシステムをリモート制御することができます。Netfinity マネージャー (Web 用) を用いれば、Netfinity マネージャー・サービスに世界中のどこからでもアクセスし、それを管理することができます。

Netfinity マネージャーによるサーバーの管理

お客様は、ServerGuide に入っている Netfinity マネージャーを、一つのサーバーにのみインストールすることができます。さらに、Netfinity クライアント・サービスの追加インストールを行うこともできます。Netfinity マネージャーを使用して、サーバーの監視および管理を行うには、システム管理コンソールとして使用するネットワーク内のシステム上に Netfinity

マネージャーをインストールしてから、監視および管理したいサーバーに Netfinity クライアント・サービスをインストールします。また、そのネットワーク内の他のシステムに、Netfinity クライアント・サービスの追加コピーをインストールすることもできます。さらに、Netfinity マネージャーと、Netfinity クライアント・サービスの追加ライセンスを IBM 担当員から購入することができます。ライセンス情報は、*CoPilot ApplicationGuide* を使用して Netfinity マネージャーをインストールするときに表示されます。

Netfinity マネージャーの資料

Netfinity マネージャーの全資料は、*CoPilot ApplicationGuide* CD の Netfinity ディレクトリにあり、オンラインで見ることができます。これらの資料は、Adobe Acrobat 形式 (*.PDF) で提供されます。資料の詳細については、55ページの第10章、『詳細情報の入手』を参照してください。

ロードマップ

表3 を使用して、Netfinity マネージャーを開始するために必要な情報を見付けてください。

実行する内容	参照箇所
Netfinity マネージャーをインストールする。	27ページの第7章、『Netfinity マネージャーのインストール』
インストール・オプションについて調べる。	57ページの付録A、『インストール・オプション』
Netfinityマネージャー・データベース・サポートについて調べる。	33ページの第8章、『Netfinity データベース・サポート』
システム要件について調べる。	21ページの第5章、『システム要件』
Netfinityマネージャーに関する説明を読む。	19ページの第4章、『Netfinity へようこそ』
インストール・プログラムを始動する。	25ページの第6章、『インストール・プログラムの始動』
Netfinityマネージャーを始動する。	47ページの第9章、『Netfinity の始動』

第5章 システム要件

Netfinity マネージャーの最小限のシステム要件はオペレーティング・システムによって異なります。

- Netfinity マネージャー (OS/2 版) がインストールされている場合は 『Netfinity マネージャー (OS/2 版) のシステム要件』を参照してください。
- Netfinity マネージャー (Windows 95 版) がインストールされている場合は 22ページの 『Netfinity マネージャー (Windows 95 版) のシステム要件』を参照してください。
- Netfinity マネージャー (Windows NT 版) がインストールされている場合は 22ページの 『Netfinity マネージャー (Windows NT 版) のシステム要件』を参照してください。

Netfinity マネージャー (OS/2 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー (OS/2 版) の最小限のシステム要件は次のとおりです。

- OS/2 バージョン 3.0 またはそれ以降
- 約 19 MB* ~ 22 MB のハード・ディスク・スペース (必要なスペースはシステム構成によって異なります)
- LAN アダプター・カード、および次の通信プロトコルのうちの 1 つ以上
 - IBM TCP/IP (OS/2 版) バージョン 1.2 またはそれ以降のリリース (Netfinity マネージャーの Web 拡張機能を使用する場合に必要です)
 - NetBIOS

注: Netfinity マネージャーの NetBIOS 要件は 3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つのネットワーク制御ブロック (NCB) です。

- IPX
- SNA

Netfinity マネージャーは、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム サポートされる SNA スタック

OS/2	IBM コミュニケーション・マネージャー/2 バージョン 1.11
-------------	-----------------------------------

- 9600 bps 以上の通信速度のモデム (オプション)

注: シリアル接続制御は、適切にインストールおよび構成されたモデムを備えていないシステムでは機能しません。

* ハード・ディスク・ドライブの容量を示す場合、MB とは約 1000000 バイトを意味しますが、ユーザーがアクセス可能な全容量は操作環境によって異なります。

Netfinity マネージャー (Windows 95 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー (Windows 95 版) の最小限のシステム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows 95
- 約 17 MB ~ 20 MB のハード・ディスク・スペース (必要なスペースはシステム構成によって異なります)
- LAN アダプター・カード、および次の通信プロトコルのうちの 1 つ以上
 - TCP/IP (WinSock バージョン 1.1 と互換性があるもの。Netfinity マネージャーの Web 拡張機能を使用する場合に必要です)
 - NetBIOS

注: Netfinity マネージャーの NetBIOS 要件は 3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つのネットワーク制御ブロック (NCB) です。

- IPX
- SNA

Netfinity は、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム サポートされる SNA スタック

Windows 95 PCOMM 4.1

- 9600 bps 以上の通信速度のモデム (オプション)

注: シリアル接続制御は、適切にインストールおよび構成されたモデムを備えていないシステムでは機能しません。

Netfinity マネージャー (Windows NT 版) のシステム要件

Netfinity マネージャー (Windows NT 版) の最小限のシステム要件は次のとおりです。

- Microsoft Windows NT バージョン 4.0 またはそれ以降
- 約 17 MB ~ 20 MB のハード・ディスク・スペース (必要なスペースはシステム構成によって異なります)
- LAN アダプター・カード、および次の通信プロトコルのうちの 1 つ以上
 - TCP/IP (WinSock バージョン 1.1 と互換性があるもの。Netfinity マネージャーの Web 拡張機能を使用する場合に必要です)
 - NetBIOS

注: Netfinity マネージャーの NetBIOS 要件は 3 つの名前、2 つのセッション、および 9 つの Network Control Block (NCB) です。

- IPX

– SNA

Netfinity は、次の SNA プロトコル・スタックをサポートします。

オペレーティング・システム サポートされる SNA スタック

Windows NT

Microsoft SNA Server バージョン 2.11 (Service Pack 1 および日付が 01/22/97 以降の WCPIC32.DLL 付き)。この DLL は Microsoft から入手できます。

注: Netfinity マネージャーを Microsoft SNA Server と共に使用するシステムは、Microsoft SNA Server クライアントが稼働するシステムと通信することはできません。Netfinity は、Microsoft SNA Server ソフトウェアの稼働するシステムのサーバー間通信だけをサポートします。ただし、Microsoft SNA Server が稼働する Netfinity システムは、他のサポートされている SNA スタックを使用する Netfinity システムとも通信をすることができます。

- 9600 bps 以上の通信速度のモデム (オプション)

注:

1. シリアル接続制御は、適切にインストールおよび構成されたモデムを備えていないシステムでは機能しません。
2. Windows NT システムを最も効果的に管理するには、Windows NT システム上で Netfinity を (ローカルまたはリモートで) 使用しているユーザーはすべて、そのシステムへの管理者レベルのアクセス権限を持っている必要があります。

第6章 インストール・プログラムの始動

Netfinity マネージャーのインストール・プログラムは、OS/2 版 Netfinity マネージャー、Windows 95 版 Netfinity マネージャー、および Windows NT 版 Netfinity マネージャーに共通しています。ただし、インストール・プログラムを始動するプロセスは、オペレーティング・システムによって異なります。

サーバーで Netfinity マネージャーのインストール・プログラムを始動するには、次の手順で行います。

1 CoPilot ApplicationGuide CD を CD-ROM ドライブに入れます。

2 次に説明するオペレーティング・システム別の手順に従います。

- OS/2 Warp Server

Netfinity マネージャー・インストール・プログラムの始動は次の手順で行います。

a コマンド・プロンプトから、次のように入力します。

x:

x は CD-ROM ドライブの文字です。この後、**Enter** キーを押します。

b SC0S2 と入力し、**Enter** キーを押します。「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが表示されます。

c 「使用可能アプリケーション」選択リストから「**IBM Netfinity** マネージャー」を選択します。

注: Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスをインストールするには、「使用可能アプリケーション」選択リストから「**Netfinity** マネージャー用 **Netfinity** クライアント・サービス」を選択します。Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスのインストール・プログラムが始動されたら、*Netfinity MANAGER* クライアント・サービスのユーザーズ・ガイドでインストールの追加説明を参照してください。

d 「製品のインストール」をクリックして、インストール・プログラムを始動します。

- Windows NT Server 3.51

a 「ファイル」プルダウン・メニューから「名前を指定して実行」を選択します。

b コマンドライン・フィールドに x:¥SCW95 と入力し、**Enter** キーを押します。「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが表示されます。

c 「使用可能アプリケーション」選択リストから「**IBM Netfinity** マネージャー」を選択します。

注: Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスをインストールするには、「使用可能アプリケーション」選択リストから「**Netfinity** マネージャー用 **Netfinity** クライアント・サービス」を選択します。 Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスのインストール・プログラムが始動されたら、*Netfinity MANAGER* クライアント・サービスのユーザーズ・ガイドでインストールの追加説明を参照してください。

d 「製品のインストール」をクリックして、インストール・プログラムを始動します。

- Windows 95 および Windows NT Server 4.0

CoPilot ApplicationGuide CD を CD-ROM ドライブに入れると、「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが自動的に開きます。自動的に開かない場合は、次のようにしてください。

a 「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択します。

b 「名前」フィールドに *x:¥SCW95* と入力し、**Enter** キーを押します。
「CoPilot ApplicationGuide」ウィンドウが表示されます。

c 「使用可能アプリケーション」選択リストから「**IBM Netfinity** マネージャー」を選択します。

注: Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスをインストールするには、「使用可能アプリケーション」選択リストから「**Netfinity** マネージャー用 **Netfinity** クライアント・サービス」を選択します。 Netfinity マネージャー用 Netfinity クライアント・サービスのインストール・プログラムが始動されたら、*Netfinity MANAGER* クライアント・サービスのユーザーズ・ガイドでインストールの追加説明を参照してください。

d 「製品のインストール」をクリックして、インストール・プログラムを始動します。

第7章 Netfinity マネージャーのインストール

ここでは、Netfinity マネージャーのインストール方法を説明します。

- 1 Netfinity マネージャー・プログラム・ファイルのコピー元となるドライブとディレクトリーを選択します。

「インストール元ディレクトリー」フィールドに、Netfinity マネージャー・プログラム・ファイルがあるドライブとディレクトリーの名前を入力します。デフォルトは、Netfinity マネージャーのインストール・プログラムが起動されたドライブとディレクトリーです。

- 2 Netfinity マネージャー・ファイルのインストール先のドライブとディレクトリーを選択します。

Netfinity マネージャー・プログラム・ファイルのコピー先となるドライブとディレクトリーの名前を入力します。デフォルトは C:\¥NETFIN (OS/2 を実行しているシステムの場合)、あるいは C:\¥WNETFIN (Windows 95 または Windows NT を実行しているシステムの場合) です。



図 1. Netfinity マネージャーのインストール・プログラム

- 3 インストール・オプションを選択します。

Netfinity マネージャーにはインストール構成は 1 つしかありませんが、Netfinity のインストール・プログラムにはいくつかのインストール・オプションがあります。各オプションは、この製品の特別な追加機能を使用可能にします。

使用可能なインストール・オプションは次のとおりです。

- システム管理サポート

システムに拡張システム管理サービスをインストールするには、「システム管理サポート」を選択します。このサービスを使用して、IBM システム管理プロセッサおよびアダプターの監視および管理を行います。

重要

システム管理サポートをインストールすると、ダイナミック接続マネージャーという名前のシリアル接続制御サービスの拡張版が、シリアル接続制御の代わりにインストールされます。システム管理およびダイナミック接続マネージャー・サービスの詳細については、*Netfinity* ライブラリーの *システム管理* を参照してください。

- キャパシティー・マネージャー

システムにキャパシティー・マネージャー・サービスをインストールするには、「キャパシティー・マネージャー」を選択します。キャパシティー・マネージャーは、ネットワーク管理者のための使いやすいリソース管理・計画ツールで、これを使用すると、ネットワーク上のすべてのサーバーについてパフォーマンスをリモートで監視することができます。

- リモート・ワークステーション制御

リモート・ワークステーション制御サービスを使用可能にするには、「リモート・ワークステーション制御」を選択します。リモート・ワークステーション制御は、Netfinity マネージャー、または Netfinity クライアント・サービスを実行しているリモート・システムの画面表示を監視または制御するために使用します。

- Update Connector マネージャー (NT 4.0、TCP/IP、および Web ブラウザーが必要)

Netfinity マネージャーをシステムにインストールしていて、IBM 選択サーバーから使用可能となる更新を使用するクライアント・システム上でシステム更新の管理を行うためにそれが使用される場合は、「Update Connector マネージャー (NT 4.0、TCP/IP、および Web ブラウザーが必要)」を選択します。

- WWW 拡張機能 (TCP/IP が必要)

他の Netfinity マネージャー・システムを管理するために使用され、WWW ブラウザーを使用してインターネット上でリモートにアクセスおよび制御されるシステムに Netfinity マネージャーをインストールする場合には、「WWW 拡張機能 (TCP/IP が必要)」を選択します。

4 Netfinity マネージャーをインストールします。

インストール構成が選択されたら、「インストール」を選択します。インストール・プログラムは、インストール構成で必要となるすべてのプログラム・ファイルをコピーします。現在コピーされているファイルの名前と、完了したインストールの割合を表示するウィンドウが表示されます。

注: インストール・プロセスを停止するには、「取り消し」を選択します。

ネットワーク通信ドライバーと、次に挙げる Netfinity マネージャー・サービスがインストールされます。

- アラート・マネージャー
- Alert On LAN 構成 (Windows 95 またはそれ以降、あるいは Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)
- キャパシティー管理 (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)
- クラスター・マネージャー (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)

- クリティカル・ファイル・モニター
- DMI ブラウザー (DMI サービス・レイヤーが必要)
- ECC メモリー・セットアップ (ECC メモリーが必要)
- イベント・スケジューラー
- ファイル転送
- 電源オン・エラー検出
- 事前障害分析 (PFA 利用可能ハード・ディスク・ドライブが必要)
- プロセス・マネージャー
- RAID マネージャー (RAID アダプターが必要)
- リモート・セッション
- リモート・システム・マネージャー
- リモート・ワークステーション制御
- スクリーン・ビュー
- 安全保護マネージャー
- シリアル接続制御
- サービス構成マネージャー
- サービス・プロセッサ・マネージャー
- サービス・マネージャー
- ソフトウェア・インベントリ
- システム診断マネージャー
- システム情報ツール
- システム・モニター
- システム区画アクセス (システム区画が必要)
- Update Connector マネージャー (Windows NT 4.0 またはそれ以降を実行するシステムでのみ利用可能)
- システム・プロファイル
- Web マネージャー構成 (「Web 用 Netfinity マネージャーのインストール」インストール構成が選択されている場合にのみインストールされる)

注: DMI ブラウザー、ECC メモリー・セットアップ、システム区画アクセス、RAID マネージャー、および事前障害分析用のグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) のプログラム・ファイルは、そのシステムに DMI サービス・レイヤー、ECC メモリー、システム区画、RAID アダプター、または PFA 利用可能ディスク・ドライブが装備されているかどうかに関係なく、インストールされます。これによって、ネットワーク管理者が、ネットワーク内の他のシステム上にあるこれらのサービスにリモートでアクセスすることができるようになります。ただし、そのサービスをローカルで使用できるようにする基本プログラムは、必要なハードウェアまたはシステム構成がある場合にだけインストールされます。

5 ネットワーク・ドライバーを構成します。

インストール構成によってネットワーク・アクセスが許可されている場合、そのシステムによってサポートされている通信プロトコルに関する情報を入力します。「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウが表示されます。



図 2. Netfinity マネージャー・インストール - 「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウ

次の手順に従って、システムの構成を続行してください。

a システム名を入力します。

「システム名」フィールドにシステムの名前を入力します。この名前によって、他の Netfinity マネージャー・ユーザーがネットワーク上のシステムを識別することができます。

b ネットワーク・ドライバーを選択します。

「ネットワーク・ドライバー」フィールドに表示される使用可能なネットワーク・ドライバーからどれか 1 つを選択します。選択されたネットワーク・ドライバーによって、システムにネットワーク・アドレスが割り当てられます。

注:

- 1) 「ドライバー使用可能」チェックボックスの下に表示されるフィールドは、選択されたネットワーク・ドライバーに応じて変わります。
- 2) IPX または TCP/IP ネットワーク・ドライバーを使用可能にすると、ネットワーク・アドレスは変更できず、そのアドレスは画面に表示されません。IPX または TCP/IP ネットワーク・ドライバーを選択すると、「ドライバー使用可能」チェックボックスの下にフィールドは表示されません。
- 3) NetBIOS ネットワーク・ドライバーを使用可能にすると、ネットワーク・アドレスが選択され、「ネットワーク・アドレス」フィールドに表示されます。このデフォルトのネットワーク・アドレスを変更する場合は、1 ~ 8 文字の任意のアドレスを入力してください。ただし、このアドレスは、そのシステムに対して固有のものでなければなりません。この NetBIOS アドレスが、ネットワーク上の別のシステムの NetBIOS アドレスと重複していた場合、Netfinity マネージャーが正しく始動できなくなります。
- 4) シリアル Netfinity マネージャー・ドライバーを使用可能にする場合は、そのシステムを識別するために使用する名前を、「固有のマシン・ダイヤルアップ名」フィールドに入力します。この名前は 32 文字までの長さにすることができ、システムに対して固有のものでなければなりません。この名前が固有でない場合、リモートの Netfinity マネージャーユーザーが、シリアル接続制御サービスを使用してそのシステムにアクセスできなくなる場合があります。

c ネットワーク・ドライバーを使用可能にします。

必要な情報をすべて入力したら、「ドライバー使用可能」チェックボックスを選択して、始動時にドライバーがアクティブになるようにします。

複数のネットワーク・インターフェースがシステムでサポートされている場合は、ステップ 5b から 5c を繰り返してネットワーク・ドライバーを追加します。

d システム・キーワードを指定してシステムを識別します (オプション)。

システム・キーワードを使ってネットワーク上でシステムを識別することによって、リモート・システム・マネージャーの検索プロセスを最大限に活用できます。これらのキーワードは、「システム・キーワード」フィールドに入力します。

e Netfinity マネージャー・オプションを選択します (オプション)。

「オプション」ボタンをクリックして「Netfinity マネージャー・オプション」ウィンドウを開きます。「Netfinity マネージャー・オプション」ウィンドウには、Netfinity マネージャーのネットワーク操作に関する特別なオプションが表示されます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- 強制リモート・ログオン

「強制リモート・ログオン」オプションが使用可能になると、システムは、リモート・システムにアクセスしたときに使用したユーザー ID とパスワードの組み合わせを保存することができなくなります。これによって、リモート・システムにアクセスするたびに、手動でログオンする必要があります。

- サービス実行アラート

「サービス実行アラート」オプションを使用可能にすると、Netfinity マネージャー・サービス・マネージャーは、システムにアクセスしているユーザーの Netfinity マネージャー・サービスの 1 つがリモート・ユーザーによって開始されるたびにアラートを生成します。このアラートには、実行されたサービスの名前と、サービスを開始したユーザーに関する情報が含まれません。

- サポート・プログラムの表示

「サポート・プログラムの表示」オプションを使用可能にすると、Netfinity マネージャーのサポート・プログラム (またはネットワーク・インターフェース) が、画面の一番下の最小化アイコンとして (Windows 3.1、または Windows NT 3.51 の場合)、Windows NT 4.0 または Windows 95 のタスクバーの中の最小化アイコンとして、あるいは OS/2 のタスク・リストの中、のどれかの形で表示されるようになります。これによって、ユーザーは Netfinity ネットワーク・インターフェースを遮断できるようになります。Netfinity マネージャーのサポート・プログラムをユーザーから隠しておきたい場合は、このオプションを使用可能にしないでください。

- 画面アクセスにはユーザーの認可が必要

「画面アクセスにはユーザーの認可が必要」オプションを使用可能にすると、ユーザーの許可なしでは、リモートから他のユーザーがそのシステムで「リモート・ワークステーション制御」や「スクリーン・ビュー」を使用できなくなります。このオプションが選択されている場合に、リモートから他のユーザーが上記のサービスのどれかを使用しようとすると、デスクトップにウィンドウがポップアップして、リモートから他のユーザーが「リモート

ト・ワークステーション制御」または「スクリーン・ビュー」を使用しようとしていることを警告するとともに、サービスの使用をリモートのユーザーに許可するかどうかを尋ねます。これに対して、Yes または No を選択することができます。15 秒以内に選択をしない場合（たとえば、このアクセスの試みが行われたときに在席していなかった場合など）、Netfinity は自動的に、リモートから他のユーザーが上記のサービスを使用できないようにします。

使用可能な Netfinity マネージャー・オプションを 1 つ以上実施するには、次の手順で行います。

- 1 「オプション」ボタンをクリックします。
- 2 使用可能にする Netfinity マネージャー・オプションを選択します。
- 3 「保管」ボタンをクリックします。

f ネットワーク・タイムアウト値を設定します (オプション)。

「ネットワーク・タイムアウト」フィールドは、Netfinity マネージャーが、応答しないリモート・システムと通信を試みる秒数を表示します。Netfinity マネージャーは、この時間内にそのリモート・システムと接続できない場合、通信の試行を停止します。ネットワーク・タイムアウトのデフォルト設定値は 15 秒です。通常はこのデフォルト設定値を変更する必要はありません。

g 構成を保管して続行します。

「保管」を選択し、構成を保管します。その上で、「終了」を選択して続行します。

注: この構成は、「Netfinity マネージャー」フォルダーから「ネットワーク・ドライバー構成」オブジェクトを選択することで、インストール終了後でも変更することができます。

6 ネットワーク・アクセスのためのシステム構成を終えると、インストール・プログラムはシステム構成ファイルに対して加える必要のある変更のリストを表示し、それらの変更を行うかどうかを尋ねます。たとえば、Netfinity マネージャー (Windows 95 版) をインストールする場合には、インストール・プログラムは CONFIG.SYS ファイルに必要な変更内容のリストを表示します。

「はい」または「いいえ」を選択します。

注: Netfinity マネージャーが正しく作動するために、システム構成に対するこれらの変更を行う必要があります。

- 「はい」を選択すると、システム構成が自動的に変更されます。
- 「いいえ」を選択すると、変更箇所はインストール先ディレクトリー内の CONFIG.NEW (場合によってはそれに加えて AUTOEXEC.NEW) というファイルに保管されます。

7 これでインストールが完了しました。システム構成の変更を有効にするためにシステムを再起動します。

第8章 Netfinity データベース・サポート

Netfinity は、大量のシステム固有データを収集し、Netfinity データベースにエクスポートする機能をサポートしています。Netfinity データベースは、DB2、Lotus Notes、または Microsoft SQL を使用して、データベース管理システム上に作成することができます。Microsoft SQL は、ODBC を介してサポートされ、Netfinity マネージャー(OS/2 版、Windows 95 版、または Windows NT 版) を実行するシステムで使用可能です。システムが ODBC をサポートしている場合は、さらにユーザーは ODBC を介して DB2 データにアクセスおよびエクスポートすることもできます。Netfinity マネージャー・プログラムとともにこれらのデータベースの 1 つまたは複数がインストールされると、次の Netfinity サービスからデータをエクスポートできるようになります。

- アラート・マネージャー
- ソフトウェア・インベントリ
- システム情報ツール
- システム・プロファイル
- システム・モニター

データベースへのエクスポートのサポートをインストールし、構成する方法については、次で説明します。

- DB2 データベースへのエクスポートのサポートをインストールする場合は、『DB2 データベースのサポート』を参照してください。
- Lotus Notes データベースへのエクスポートのサポートをインストールする場合は、39 ページの『Lotus Notes データベース・サポート』を参照してください。
- ODBC データベースへのエクスポートのサポートをインストールする場合は、41 ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

DB2 データベースのサポート

DB2 データベースへのエクスポートのサポートは、Netfinity マネージャーのインストール時に自動的に構成されます。ただし、データベース・システム自体はユーザーが構成する必要があります。データベースの構成方法は、この後に説明します。

ファイルへの生データのダンプも可能です。このダンプはデータベースがなくても実行することができます。

システム要件

Netfinity データベース・エクスポートの最小限の要件は、次のとおりです。

- Netfinity マネージャー・プログラム(OS/2 版):
 - DB2 クライアント・バージョン (45ページの表4 を参照)
 - DB2 バージョン (45ページの表4 を参照)
- Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版):
 - DB2 クライアント (Windows 95 版) (45ページの表4 を参照)
 - DB2 バージョン (45ページの表4 を参照)
- Netfinity マネージャー・プログラム(Windows NT 版):

- DB2 クライアント (Windows NT 版) (45ページの表4 を参照)
- DB2 パージョン (45ページの表4 を参照)

重要 :

Netfinity データベースへのサポートを、サポートされていないバージョンの DB2 または DB2 クライアントを実行するシステムで使用すると、不測の結果を招き、システムが停止するおそれがあります。

一般的な要件とサポートされているプロトコルについては、*DB2 導入の手引き* を参照してください。

データベースのインストールと構成

次に、DB2 データベースのインストールと構成のための手順を説明します。

注: OS/2 を使用する場合は、『OS/2 へのデータベースのインストール』を参照してください。

1 DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

注: DB2 が開かれていない場合は、DB2 データベース・マネージャーを始動してください。

2 次のコマンドを入力します。

```
DB2 CREATE databasename ON d
```

ここでは、

- *databasename* はデータベースの名前です。
- *d* はそのデータベースが作成されているドライブです。

3 Enter キーを押します。

4 次に、テーブルが構成できるように、ODBC データベース・サポート用のテーブルを構成する必要があります。ODBC 用のデータベースの構成については、42ページの『ODBC データベースの構成』を参照してください。また、テーブルの作成については、43ページの『Netfinity テーブルの作成』を参照してください。

5 最後に、データベースをバインドする必要があります。データベースのバインドについては、35ページの『データベースの活動化』を参照してください。

OS/2 へのデータベースのインストール

1 CD-ROM ドライブに Netfinity の CD-ROM を挿入します (この例ではドライブ D ですが、ドライブ文字はそれぞれで異なっている可能性があります)。

2 OS/2 全画面または OS/2 ウィンドウ・セッションを開きます。

3 CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

D: と入力して、Enter キーを押します。

4 OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
NETFINDB CREATE /DBNAME=databasename /DRIVE=d
```

ここで、*databasename* はデータベースの名前で、*d* はそのデータベースが作成されているドライブです。

注: データベースの何らかの部分の既に存在している場合、ユーティリティー・プログラムはデータベースの欠落している部分だけを作成します。

5 Enter キーを押します。

データベースの活動化

次に、データベースへの接続、バインド、および特権の付与について説明します。

1 データベースに接続します。

a DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

b 次のコマンドを入力します。

```
DB2 CONNECT TO databasename
```

ここで、*databasename* はデータベースのインストール手順で指定されたデータベースの名前です。

c Enter キーを押します。

2 パッケージとデータベースをバインドします。

バインド・ファイルに保管する SQL ステートメントを準備し、パッケージをデータベースに保管するには、Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版)、Netfinity マネージャー・プログラム (Windows 95 版)、Netfinity マネージャー・プログラム (Windows NT 版) がインストールされているシステムから、次の手順を実行します。

a DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

b DB2 コマンド・ウィンドウで、次のコマンドを入力します。

```
DB2 BIND x:¥directory¥DB2SQLC0.bnd
```

ここで、*x:¥directory* は、Netfinity がインストールされているドライブとディレクトリーの名前です。

c Enter キーを押します。

データベース特権の付与および取り消し

次に、データベース特権の付与および取り消しについて説明します。

注: OS/2 を使用する場合は、36ページの『OS/2 システムでのデータベース特権』を参照してください。

1 DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

注:

- a. そのウィンドウがまだ開かれていない場合は、DB2 データベース・マネージャーを始動してください。
- b. DB2 Netfinity データベースに接続していない場合は、データベースに接続してください。

2 次のコマンドを入力します。

```
DB2 GRANT privilegecode ON TABLE tablename TO userid
```

ここで、

- *privilegecode* は、次の特権コードのどれかです。

- ALL
- ALL PRIVILEGES

注: データベースに関するすべての適切な特権 (CONTROL を除く) を付与します。

- ALTER
- CONTROL
- DELETE
- INDEX
- INSERT
- REFERENCES
- SELECT
- UPDATE

- *tablename* は、データベースのインストール時に指定されたテーブルの名前です。Netfinity データベース・テーブル名のリストは、*Netfinity ユーザーズ・ガイド*の付録 H 『Netfinity リレーショナル・データベース・テーブル』に記載されています。

注: 特権の付与および取り消しには、Netfinity データベース管理ツールも使用できます。データベース管理ツールの使用については、43ページの『Netfinity テーブルの作成』を参照してください。

- *userid* はアクセスを認可されるユーザー ID です。

3 Enter キーを押して、コマンドを実行します。

特権を取り消すには、コマンド行に GRANT の代わりに REVOKE を入力します。

OS/2 システムでのデータベース特権

- 1 Netfinityがデータベースにアクセスできるようにするには、GRANT EXECUTE コマンドを使用します。

OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
DB2 GRANT EXECUTE ON PACKAGE NETFIN.DB2SQLC0 TO PUBLIC
```

次に、Enter キーを押します。

注: PUBLIC を指定するか、特定の管理者システムだけを許可することができます。データベースへのアクセスを制限するには、PUBLIC の代わりに、管理用システムの許可名を指定します。

- 2 データベースから現行ユーザーを切り離すには、CONNECT RESET コマンドを使用します。

OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力し、

```
DB2 CONNECT RESET
```

次に、**Enter** キーを押します。

- 3 データベース特権を付与する (または取り消す) には、NETFINDB GRANT コマンドを使用します。

OS/2 でのテーブル特権の付与または取り消しを行うには、次のようにします。

- a CD-ROM ドライブに Netfinity の CD-ROM を挿入します (この例ではドライブ D ですが、ドライブ文字はそれぞれで異なっている可能性があります)。

- b CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

D: と入力して、**Enter** キーを押します。

- c 次のコマンドを入力します。

```
NETFINDB GRANT /ID=id PUBLIC /DBNAME=databasename  
/PRIV=privilegecode
```

ここで、

- *id* はアクセスを認可されるユーザー ID です。
- *databasename* は NETFINDB 実行中に指定されたデータベースの名前です。
- *privilegecode* は、次の特権コードのどれかです。
 - ALL
 - ALTER
 - CONTROL
 - DELETE
 - INDEX
 - INSERT
 - REFERENCES
 - SELECT
 - UPDATE

- d **Enter** キーを押して、コマンドを実行します。

注: PUBLIC を使用するか、特定の ID またはグループ名だけを許可することができます。Netfinity マネージャー更新プログラムは DB2SQLC0 パッケージを使用し、特定のテーブル特権を必要としません。

特権を取り消すには、コマンド行に GRANT の代わりに REVOKE を入力します。

DB2 で使用するための ODBC を介するデータのエクスポートを中止するように Netfinity を構成する場合は、41ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

管理者用システム内のデータベースのカタログ

管理者がリモート・データベースを使用している場合は、データベースが置かれているノードをカタログしてから、そのノードに対してそのデータベースをカタログします。

この手順が完了すると、Netfinity データベースの名前が、「システム情報ツール」の「データベース選択」ウィンドウに表示されます。

データベースの削除

次に、データベースを削除する方法について説明します。

注: OS/2 を使用する場合は、『OS/2 でのデータベースの削除』を参照してください。

1 DB2 コマンド・ウィンドウを開きます。

注: DB2 がまだ開いていない場合は、DB2 データベース・マネージャーを始動してください。

2 次を入力します。

DB2 DROP DATABASE *databasename*

ここで

databasename は、データベースのインストール時に指定されたデータベースの名前です。

3 Enter キーを押します。

OS/2 でのデータベースの削除

1 データベース・サーバーの CD-ROM ドライブに Netfinity の CD-ROM を挿入します (この例 では CD-ROM ドライブは E です)。

2 OS/2 全画面または OS/2 ウィンドウ・セッションを開きます。

3 CD-ROM ドライブをアクティブ・ドライブにします。

E: と入力し、Enter キーを押します。

4 OS/2 プロンプトに次のコマンドを入力します。

NETFINDB DELETE /DBNAME=*databasename*

ここで、*databasename* は NETFINDB 実行中に指定されたデータベースの名前です。

5 Enter キーを押します。

DB2 上で使用するための ODBC を介するデータのエクスポートを中止するように Netfinity を構成する場合は、41ページの『ODBC データベースのサポート』を参照してください。

Lotus Notes データベース・サポート

Netfinity マネージャーが、システム・データを Lotus Notes データベースにエクスポートできるようにするには、次の手順を行う必要があります。

- 1 Netfinity データベース・テンプレートを Lotus Notes サーバーにインストールします。
- 2 Netfinity マネージャーが Lotus Notes サーバーにエクスポートできるようにします。

Lotus Notes データベース・テンプレートのインストール方法と、Netfinity マネージャーを Lotus Notes データベースにエクスポートできるようにする方法については、この後に説明します。

システム要件

Netfinity Lotus Notes データベース・エクスポートの最小限のシステム要件は、次のとおりです。

- Lotus Notes (45ページの表4 を参照)
- Lotus Notes クライアント (45ページの表4 を参照)

一般的なシステム要件およびサポートされている通信プロトコルについては、*Notes 管理者の手引き* を参照してください。

データベースのインストール

Netfinity が、Lotus Notes データベースにシステム・データをエクスポートできるようにするには、Netfinity データベース・テンプレートを Lotus Notes サーバーにインストールします。Netfinity のインストール時に、Lotus Notes データベース・テンプレート・ファイル (NETFINDB.NTF) が Netfinity マネージャー・プログラム・ディレクトリーにコピーされます。データベース・テンプレートを Lotus Notes サーバーにインストールする手順は、次のとおりです。

- 1 Netfinity プログラムのディレクトリーから、Lotus Notes サーバー上の Notes データ・ディレクトリーに NETFINDB.NTF をコピーします。
- 2 そのサーバーで Lotus Notes を始動します。
- 3 Notes の「ファイル」プルダウン・メニューから「データベースの新規作成」を選択します。
「データベースの新規作成」ウィンドウがオープンします。
- 4 「テンプレート」選択リストから「**Netfinity** データベース」を選択します。
- 5 「テンプレートを引き継いで設計」チェック・ボックスを選択します。

これを選択することで、Netfinity の将来のリリースにおける変更を、Netfinity データベースに自動的に適用できるようになります。

- 6 「サーバー」選択リストから「ローカル」を選択します。

注: リモート・サーバーにデータベースをインストールする場合には、「サーバー」リストからそのリモート・サーバーの名前を選択します。

- 7 「ファイル名」フィールドに次のように入力します。
NETFINDB.NSF
- 8 「タイトル」フィールドに次を入力します。
Netfinity Database
- 9 「新規」を選択して、データベースを作成し、「新規データベース」ウィンドウを閉じます。
- 10 「Lotus Notes」ワークスペースから「Netfinity データベース」アイコンを選択します。
- 11 「ファイル」プルダウン・メニューから「データベース」を選択します。
- 12 「データベース」プルダウン・メニューから「アクセス制御」を選択します。
- 13 このデータベースにデータをエクスポートするすべての Netfinity マネージャーについて、アクセス・レベルを「編集者」に設定します。
- 14 「文書を削除できる」チェックボックスを選択します。
- 15 「了解」ボタンをクリックします。

Lotus Notes データベースをインストールしたあとで、Netfinity マネージャーが Lotus Notes サーバーにエクスポートできるようにします。

- Netfinity システムが Netfinity マネージャー (OS/2 版) を実行している場合は、Lotus Notes のディレクトリーが CONFIG.SYS ファイルの LIBPATH、PATH、および DPATH ステートメントに含まれていることを確認してください。これらのステートメントに Lotus Notes のディレクトリーが含まれていないと、Lotus Notes データベースにエクスポートすることはできません。
- システムが Netfinity マネージャー (Windows NT 版) を実行している場合は、グローバル Windows NT 環境変数に Lotus Notes のディレクトリー・パスが含まれていることを確認してください。
- システムが Netfinity マネージャー (Windows 95 版) を実行している場合は、Lotus Notes のディレクトリーが AUTOEXEC.BAT ファイルの PATH ステートメントに含まれていることを確認してください。このステートメントに Lotus Notes のディレクトリーが含まれていないと、Lotus Notes データベースにエクスポートすることはできません。

以上の手順が完了したら、ブラウズの容易な Lotus Notes データベースに Netfinity サービスからのシステム情報をエクスポートできるようになります。

Netfinity Lotus Notes データベースのブラウズ

Netfinity Lotus Notes データベースに入っているデータをブラウズするには、次のようにします。

- 1 「Lotus Notes」ワークスペースの「Netfinity データベース」オブジェクトをオープンします。
- 2 「表示」プルダウン・メニューから、Netfinity データベース内のブラウズしたいセクションを選択します。

Netfinity データベースは、特定の Netfinity サービスによって収集されたデータを含む複数のセクションに分割されています。表示するデータを収集しているサービスの名前 (たとえば、アラート・ログ など) を選択します。

注: メニュー項目の中にはサブメニューを含むものがあります。

- 3 選択された Netfinity データベースの部分に含まれている情報のリストが、そのウィンドウに表示されます。表示されたデータ項目に関する詳細情報を見たい場合は、そのデータ項目をダブルクリックします。
- 4 データ項目の中には、追加情報を表示するために展開できるものがあります。これらの項目には、「Notes」ウィンドウのデータ項目名の左側の枠にプラス符号 (+) が付いています。データ項目を展開するには、項目を選択し、「表示」プルダウン・メニューから「展開」を選択します。

ODBC データベースのサポート

Netfinity は、SQL または DB2 データベース・システムで使用するために、ODBC を介するデータのエクスポートをサポートしています。

注: ODBC データベース・エクスポートは、Netfinity マネージャー・プログラムを実行しているシステムでのみ使用できます。

システム要件

Netfinity ODBC データベース・エクスポートの最小限の要件は次のとおりです。

- Windows NT (45ページの表4 を参照)
 - ODBC (45ページの表4 を参照)
 - 次のデータベース管理システム (DBMS - 45ページの表4 を参照) の 1 つまたは複数のための ODBC サポートがあること。
 - IBM DB2
 - Microsoft SQL Server
- Windows 95 (次の場合)
 - ODBC (45ページの表4 を参照)
 - 次のデータベース管理システム (DBMS - 45ページの表4 を参照) の 1 つまたは複数のための ODBC サポートがあること。
 - IBM DB2

- Microsoft SQL Server
 - OS/2 (45ページの表4 を参照)
 - Microsoft SQL Server (Microsoft SQL Server に付属して提供される Visigenic ドライバーを使用)

または
 - IBM DB2
- 注: ODBC データベース名の長さは、8 文字を超えないようにしてください。

ODBC データベースの構成

ここでは、Netfinity マネージャーが、ODBC を使用して Netfinity データベース・テーブルを作成するために完了しておく必要のある手順を説明します。

- 1 NETFIN ID を定義して、Netfinity データベース管理が NETFIN というテーブル修飾名で Netfinity データベース・テーブルを作成できるようにします。

重要

NETFIN は、制限付きのユーザー ID です。使用後に Netfinity データベース管理はこのパスワードを保管しません。この ID をエクスポート用には使用しないでください。

注:

- a. OS/2 および Windows 95 では、NETFIN はデータベースのオーナーであるか、または管理者権限が与えられている必要があります。
- b. Windows NT の場合に、DB2 にエクスポートするときは、NETFIN はデータベースのオーナーであるか、あるいは NT の「ドメイン・ユーザー・マネージャー」か「ユーザー・マネージャー」によってシステム管理者として定義されている必要があります。

Windows NT で、MS SQL にエクスポートするときは、NETFIN はデータベースのオーナーであるか、あるいはテーブル作成権が与えられている必要があります。

- 2 データベースを NETFIN ID との適切な関係で作成します。
- 3 オペレーティング・システムまたはデータベースに付属の ODBC ツールを使用して、データベース ODBC ソースを作成します。
- 4 Windows NT では、ODBC データベースを使用してデータをエクスポートするために、Netfinity サポート・プログラムを構成します。
 - a 「コントロール パネル」から、「サービス」をオープンします。
 - b 「サービス」フィールドから「Netfinity サポート・プログラム」を選択してから、「スタートアップ」を選択します。
 - c 「スタートアップの種類」ボタン・グループから「自動」を選択します。

d 「ログオン」フィールド・グループから、「アカウント」を選択します。「アカウント」フィールドに、ODBC サービスを所有するアカウントのユーザー名を入力します。

e 「OK」ボタンをクリックします。

注: イベント・スケジューラーあるいはアラート・マネージャーが ODBC を用いてデータをエクスポートする場合には、イベント・スケジューラーがデータをエクスポートしている間、ODBC サービスを所有する ID でログオンし続けている必要があります。

Netfinity テーブルの作成

Netfinity がデータをエクスポートするために必要なテーブルを作成する手順は、次のとおりです。

1 「Netfinity データベース管理」アイコンをオープンします。

「Netfinity データベース管理」プログラムは、Netfinity フォルダーまたは Netfinity プログラム・グループ (図3 を参照) の中にあります。このアイコンをオープンして、「Netfinity データベース管理」ウィンドウをオープンします。



図 3. OS/2 Warp バージョン 4.0 システム上の Netfinity プログラム・グループ

2 DBMS を選択します。

「DBMS の選択」リストから、Netfinity がデータのエクスポートに使用する DBMS の名前を選択します。



図 4. 「Netfinity データベース管理」ウィンドウ

- 3** データベース内に Netfinity テーブル・グループを作成するには、「作成」を選択してから、「了解」を選択し、「データベース選択」ウィンドウをオープンします。

次のテーブル・アクションも使用可能です。

- 削除

データベースから Netfinity テーブル・グループを削除するには、「削除」を選択してから、「了解」を選択し、「データベース選択」ウィンドウをオープンします。

- 付与

指定されたユーザー ID にデータベースへのアクセスを許可します。アクセスを許可するには、次のように行います。

- 「付与」を選択します。
- 「ユーザー ID」フィールドに、データベースへのアクセスを許可するユーザー ID を入力します。
- この ID に付与する特権を選択します。
デフォルトではすべての特権 (挿入、削除、選択、および更新) が選択されています。データベースにデータをエクスポートするには、ユーザー ID はこれらの特権をすべてもっている必要があります。
- 「了解」を選択して、「データベース・サーバー」ウィンドウをオープンします。

- 取消

指定されたユーザー ID について、データベースへアクセスできないようにします。アクセスを取り消すには、次のように行います。

a 「取消」を選択します。

b 「ユーザー ID」フィールドに、データベースへのアクセスを取り消すユーザー ID を入力します。

c この ID から取り消される特権を選択解除します。

デフォルトではすべての特権 (挿入、削除、選択、および更新) が選択されています。データベースにデータをエクスポートするには、ユーザー ID はこれらの特権をすべてもっている必要があります。これらの特権の一部または全部を取り消すことができます。

d 「了解」を選択して、「データベース・サーバー」ウィンドウをオープンします。

4 テーブル・グループを作成するデータベースを選択します。

5 「OK」ボタンをクリックします。

これで、「Netfinity データベース・アクセス」ウィンドウがオープンします。

6 「ユーザー ID」フィールドに次のように入力します。

netfin

netfin は、Netfinity・データベースの修飾子の名前です。

7 「パスワード」フィールドに、Netfinity データベースへのアクセスを可能にするパスワードを入力します。

8 「了解」を選択します。

入力した情報の処理が進む間、「テーブル作成中」という状況メッセージが表示されます。操作が完了すると、「要求された処理が完了しました」というメッセージが表示されます。

サポートおよび保証されるデータベース

次の表は、現行リリースの Netfinity の稼働が確認されているデータベースおよびオペレーティング・システムを示しています。

表 4 (1/2). サポートされる Netfinity データベース. オペレーティング・システムおよびデータベース・クライアントのバージョン別に示しています。					
製品	Windows 95	Windows NT 3.51	Windows NT 4.0	OS/2 Warp Connect	OS/2 Warp 4.0
IBM DB2 バージョン 2.1.2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
IBM DB2 Universal Database 5.0	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
ODBC - IBM DB2 バージョン 2.1.2	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー	Yes、DB2 ドライバー

表 4 (2/2). サポートされる Netfinity データベース. オペレーティング・システムおよびデータベース・クライアントのバージョン別に示しています。

製品	Windows 95	Windows NT 3.51	Windows NT 4.0	OS/2 Warp Connect	OS/2 Warp 4.0
ODBC - IBM DB2 Universal Database 5.0	Yes, DB2 ドライバー	Yes, DB2 ドライバー	Yes, DB2 ドライバー	Yes, DB2 ドライバー	Yes, DB2 ドライバー
ODBC - Microsoft SQL バージョン 6.0	Yes, Microsoft SQL ドライバー	Yes, Microsoft SQL ドライバー	Yes, Microsoft SQL ドライバー	Yes, Visigenic ドライバー バージョン 1.10	No
ODBC - Microsoft SQL バージョン 6.5	Yes, Microsoft SQL ドライバー	Yes, Microsoft SQL ドライバー	Yes, Microsoft SQL ドライバー	No	No
Lotus Notes バージョン 4.5.2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Lotus Notes バージョン 4.5.3a	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
Lotus Notes バージョン 4.6	Yes	No	Yes	No	No
Lotus Notes バージョン 4.6a	Yes	No	Yes	No	No
Oracle バージョン 7.3	Yes, Oracle ドライバー バージョン 2.0.3.1.1	Yes, Oracle ドライバー バージョン 2.0.3.1.1	Yes, Oracle ドライバー バージョン 2.0.3.1.1	No	No
Oracle バージョン 8.0	Yes, Oracle ドライバー バージョン 8.0.3.0.0	No	Yes, Oracle ドライバー バージョン 8.0.3.0.0	No	No
Sybase SQL バージョン 11.0	Yes, Sybase ドライバー バージョン 10.0.3T4	Yes, Sybase ドライバー バージョン 10.0.3T4	Yes, Sybase ドライバー バージョン 10.0.3T4	No	No

注: 以上の記述は、Netfinity マネージャー リリース 5.2 に適用されます。

第9章 Netfinity の始動

Netfinityを始動するには、次のようにします。

1 Netfinityのフォルダーまたはプログラム・グループをオープンします。

Netfinity マネージャーのインストール時に、Netfinity フォルダー (OS/2、Windows 95、または Windows NT 4.0 のみ) あるいは Netfinity プログラム・グループ (Windows NT 3.51 のみ) がデスクトップに追加されます。Netfinity フォルダーまたはプログラム・グループには、「Netfinity サービス・マネージャー」オブジェクトが含まれています。



図 5. Netfinity フォルダー

注:

- a. Netfinity フォルダーまたは Netfinity プログラム・グループには、「はじめに」というオブジェクトが入っています。この文書には、お手持ちの資料には記載されていない Netfinity に関する情報が含まれています。
- b. Netfinity フォルダーには、ネットワーク・プロトコルとシステム・キーワードの再構成に使用できる「ネットワーク・ドライバ構成」オブジェクトと、Netfinity データベース内のすべてのデータ・テーブルをオンラインで簡単に参照するための「Netfinity データベース・テーブル」オブジェクトも含まれています。Netfinity データベース・サポートの詳細については、33ページの第8章、『Netfinity データベース・サポート』を参照してください。
- c. Netfinity フォルダーには、「Netfinity データベース管理」オブジェクトがあり、この「Netfinity データベース管理」を使用すると、Netfinity データベース・サポートを構成することができます。データベース管理の詳細については、Netfinity クイック・ガイドの『ODBC データベース・サポート』を参照してください。

2 Netfinity サービス・マネージャーを始動します。

Netfinity サービス・マネージャーを始動するには、マウスの左ボタンを使用して、「Netfinity サービス・マネージャー」オブジェクトをダブルクリックします。

Netfinity サービス・マネージャー

システムでサポートされるすべての Netfinity サービスは、「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウから始動できます。使用可能なサービスは、インストール時に選択したインストール構成によって異なります。



図 6. Netfinity サービス・マネージャー

「Netfinity サービス・マネージャー」ウィンドウに表示される Netfinity サービスのどれかを始動するには、そのサービス・プログラムのアイコンをダブルクリックします。リモート・システムの Netfinity サービスを始動するには、リモート・システム・マネージャー・サービスを使用します。

Netfinity サービスの説明

各 Netfinity サービスは、基本プログラムとグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) で構成されます。サービス基本プログラムは、リモートの Netfinity から個々のサービスにアクセスすることを可能にしますが、ローカル・アクセスには対応していません。サービス GUI をそれぞれ対応する基本プログラムと一緒に使用することによって、ユーザーはサービスにアクセスすることができます。

一部のサービスは、特別のシステム構成を備えたシステムだけで利用することができます。このようなサービスには次のものがあります。

- Alert On LAN 構成 (Windows 95 以降、あるいは Windows NT 4.0 以降を実行するシステムでのみ使用可能)
- キャパシティ・マネージャー (Windows NT 4.0 以降を実行するシステムでのみ使用可能)
- クラスタ・マネージャー (Windows NT 4.0 以降を実行するシステムでのみ使用可能)
- DMI ブラウザー (DMI サービス・レイヤーが必要)
- ECC メモリー・セットアップ (ECC メモリーが必要)
- 事前障害分析 (PFA 利用可能ハード・ディスクが必要)
- RAID マネージャー (RAID ハード・ディスク・サブシステムが必要)
- システム区画アクセス (システム区画が組み込まれていることが必要)
- Update Connector マネージャー (Windows NT 4.0 以降を実行するシステムでのみ使用可能)

各 Netfinity サービスについて、次に簡単に説明します。これらの各サービスの詳しい使用方は、*Netfinity ユーザーズ・ガイド* のそれぞれのサービスごとの章に記載されています。

アラート・マネージャー

アラート・マネージャーは、アプリケーションが生成したアラートを受信し、処理することのできる拡張可能な機能です。アラートに対応して、各種のアクションをとることができます。アクションの例としては、アラートの記録、ユーザーへの通知、別のシステムへのアラートの転送、プログラムの実行、WAV ファイルの再生 (マルチメディア・システムだけで使用可能)、SNMP アラート・メッセージの生成、デジタル・ページャー・サービスへのダイヤル・アウト (モデムを装備するシステムでのみ使用可能)、またはアプリケーションで定義されたアクションの実行などが挙げられます。ユーザーは、高度な柔軟性をもつアクション管理インターフェースを使って、アクションを定義することができます。

さらに、アラート・マネージャーで受信したすべてのアラートは、広範囲にわたる詳細なログとして保管されます。ログから入手可能な情報には、アラート・マネージャーが生成したテキストやアラート・マネージャーがとったアクションのほかに、アラートを受信した日付と時刻、アラートのタイプと重要度、アラートを生成したアプリケーションの ID などが含まれます。アラートは、個々に、または複数個同時にログから選択して、将来の参照用に印刷したり、問題の解決後にログから削除したりできます。このサービスは、スタンドアロンおよびネットワークのどちらでも使用することができます。

Alert On LAN 構成

Alert on LAN 構成サービスは、Alert on LAN 機能のあるシステムのモニター・オプションをローカルまたはリモートで構成する場合に使用します。Alert on LAN 機能のあるシステムでは、システムに関する重大な事態の情報を提供します。このデータは、TCP/IP を使用してハードウェアまたはソフトウェアによって (その時点でシステムの電源が入っているかいないかによって異なります) 報告されます。

キャパシティー・マネージャー

キャパシティー・マネージャーは、ネットワーク管理者のための使いやすいリソース管理および計画ツールで、これを使用すると、ネットワーク上のすべてのサーバーについてパフォーマンスをリモートで監視することができます。

クラスター・マネージャー

クラスター・マネージャーは強力なアプリケーションで、Microsoft Cluster Server (MSCS) 管理コンソールのクラスター管理機能 (Microsoft Windows NT バージョン 4.0 Enterprise Edition に組み込まれます) を拡張する目的で設計されました。クラスター・マネージャーは、強力な MSCS を土台にして、ネットワーク上でクラスター化されているシステムを迅速かつ容易に監視および管理することを可能にする、統合グラフィカル・インターフェースを提供します。このサービスが使用できるのは、Windows NT Workstation 4.0 が稼働しているシステムの場合だけです。

クリティカル・ファイル・モニター

クリティカル・ファイル・モニターを使用すると、システム上の重要なシステム・ファイルが削除されたり変更されたとき、警告を受けることができます。クリティカル・ファイル・モニターを使用すると、重要なシステム・ファイル (たとえば、CONFIG.SYS ファイルなど) の日付、時刻、サイズが変更された場合や、ファイルが削除または作成された場合に、Netfinity アラートの生成が簡単になります。また、クリティカル・ファイル・モニターを使用すると、Netfinity システムに存在しているすべてのファイルを監視することができます。

DMI ブラウザー

DMI ブラウザーを使用すると、システムにインストールまたは接続されている DMI 準拠のハードウェア製品とソフトウェア製品についての情報を調べることができます。

ECC メモリー・セットアップ

ECC メモリー・セットアップを使用すると、ECC メモリーのシングル・ビット・エラーを監視し、エラーが検出されると ECC メモリーを自動的に「修正」します。また、シングル・ビット・エラーの回数をカウントし、ECC シングル・ビット・エラーのしきい値を超えた場合に、マスク不能割り込み (NMI) を行わせるためのシングル・ビット・エラーしきい値を設定することもできます。このサービスは、ECC メモリー搭載のシステムであれば、スタンドアロンでも、ネットワークでも使用することができます。

イベント・スケジューラー

イベント・スケジューラーを使用すると、多くの Netfinity サービスを自動化することができます。イベント・スケジューラーによって、ネットワーク上のすべての Netfinity システムで、システム情報ツール、システム・プロファイル、およびソフトウェア・インベントリーのデータの自動収集とエクスポート、ファイルの配布または削除、システムの再始動、コマンドの実行、およびシステム区画へのアクセスと管理を行うことができます。スケジュールされたイベントは 1 回のみ実行するか、あるいはユーザーが定義したスケジュールに従って実行することができます。

ファイル転送

ファイル転送サービスを使用すると、ネットワーク上のリモート Netfinity システムとの間のファイルまたはディレクトリー全体の送受信や削除を簡単に実行することができます。

電源オン・エラー検出

電源オン・エラー検出サービスは、リモート Netfinity システムの起動時に問題が発生すると、ただちに警告を発生し、ユーザーが問題に迅速に対応してシステムダウンの時間を最小限に抑えることができます。

事前障害分析

事前障害分析 (PFA) サービスを使用すると、PFA 利用可能ハード・ディスク・ドライブを継続して監視および管理することができます。PFA 利用可能ハード・ディスク・ドライブは、ドライブの問題や障害を、それらが発生する前に検出したり予測したりできるようにハードウェアが設計されているので、データの損失を防ぎ、システムダウンの時間を抑えるために役立てることができます。

プロセス・マネージャー

プロセス・マネージャーを使用すると、システム上で現在アクティブなすべてのプロセスに関する詳しい情報を表示することができます。また、プロセスが開始または停止した場合、あるいは、システムの始動後、指定された時間内にプロセスを開始できなかった場合に、プロセスを停止または開始したり、Netfinity アラートを生成することもできます。

RAID マネージャー

RAID マネージャー・サービスを使用すると、保守のために RAID システムをオフラインにすることなく、一連の RAID (Redundant Arrays of Independent Disk) アダプターおよび RAID アレイを監視、管理、構成することができます。RAID マネージャーは、システムの RAID アレイと RAID アダプターに関するデータの収集、障害のあるドライブの再構成、論理ドライブの追加または削除、データの保全性のテストの実行およびその他のさまざまな RAID システムのタスクに使用します。このサービスは、サポートされている RAID アダプターを備えたシステムであれば、スタンドアロンでも、ネットワークでも使用することができます。

リモート・セッション

リモート・セッションを使用すると、リモートの Netfinity システムとの間で完全にアクティブなコマンド・セッションを確立することができます。

リモート・システム・マネージャー

リモート・システム・マネージャーを使用すると、ネットワーク内の任意の Netfinity システムにインストールされている任意の Netfinity サービスにアクセスし、管理することができます。ネットワーク上の Netfinity システムは、自動検索機能を使用して自動的な更新が可能な、管理の簡単な論理グループに編成することができます。

リモート・ワークステーション制御

リモート・ワークステーション制御を使用すると、Netfinity マネージャー (または Netfinity クライアント・サービス) を実行しているリモート・システムのスクリーン表示を監視および制御することができます。別の Netfinity マネージャー・システムとのリモート・ワークステーション制御セッションを開始すると、そのリモート・システムのディスプレイ上に表示されるイベントの受動的な監視、またはそのリモート・システムのデスクトップの能動的な制御を行うことができます。リモート・ワークステーション制御セッションを開始すると、システムに入力されるすべてのマウスのクリックおよびキー入力が入力されたリモート・システムに自動的に渡されます。リモート・ワークステーション制御を使用して、リモートからのプログラムの起動、ウィンドウのオープンおよびクローズ、コマンド入力などの操作ができます。

スクリーン・ビュー

スクリーン・ビュー・サービスを使用すると、リモート Netfinity システムのグラフィック画面の「スナップショット」をとり、ローカルの画面上に表示することができます。これらのスナップショットは、ビットマップとして保管し、後で参照することができます。

安全保護マネージャー

安全保護マネージャーを使用すると、ユーザーの Netfinity サービスの一部またはすべてに無許可のアクセスが行われないようにすることができます。このサービスは、着信ユーザー ID とパスワードの組み合わせを使用するもので、ネットワーク機能だけで使用できます。

シリアル接続制御

シリアル接続制御サービスを使用すると、Netfinityを実行するリモート・システムから、電話回線とモデムを介して、システムにアクセスすることができます。また、シリアル接続制御サービスによって、ネットワークに接続されていなくても、Netfinity マネージャーの優れたリモート・システム・アクセス機能、監視機能、および管理機能が利用できます。

注: シリアル接続制御サービスを使用するには、少なくとも 9600 ボーをサポートするモデムがシステムに正しくインストールされ、構成されている 必要があります。

重要

システム管理サポートをインストールすると、ダイナミック接続マネージャーという名前のシリアル接続制御サービスの拡張バージョンが、シリアル接続制御の代わりにインストールされます。システム管理およびダイナミック接続マネージャー・サービスの詳細については、このサーバー・ライブラリーの『システム管理プロセッサ情報』の項を参照してください。

サービス構成マネージャー

サービス構成マネージャーを使用すると、選択したシステムの Netfinity サービスの構成を、サービス構成ファイル (SCF) に保管することができます。SCF ファイルを作成すると、イベント・スケジューラーでそれを使用して、構成を同じシステムに戻して復元したり、それを (イベント・スケジューラーと共に) 使用して、選択した同様のシステムに構成を伝送することもできます。

システム管理

システム管理では、お持ちの IBM PC サーバースystem管理アダプター、Netfinity システム管理 PCI アダプター、または Netfinity システム管理プロセッサで利用できる、最大の機能性を実現します。システム管理サービスでは、システム管理イベント (たとえば、POST、ローダー、およびオペレーティング・システムのタイムアウトまたは重大な温度、電圧、および損傷のアラートなど) を構成することができます。これらのイベントのどれかが発生した場合に、システム管理サービスは、モデムまたはご使用の Netfinity マネージャー・システムを使用して、他の Netfinity マネージャー・システムまたは数値または英数字ページャーに Netfinity アラートを、自動的に転送するように構成できます。

ソフトウェア・インベントリー

ソフトウェア・インベントリーを使用すると、システムにインストールされているすべてのアプリケーション・プログラムのインストール状況の保守を簡単に行うためのソフトウェア製品辞書を作成、管理することができます。

システム診断マネージャー

システム診断マネージャーを使用すると、ROM ベースの診断をサポートしているシステムに対して、各種の診断タスクを開始することができます。以前に実行したすべての診断セッションの結果がシステムに保存されているので、システム診断マネージャーを使用してこれを調べることができ、システムの問題の診断および解決に役立ちます。

システム情報ツール

システム情報ツールを使用すると、システムのハードウェアおよびソフトウェアの構成の詳細情報を素早く簡単に入手することができます。システム情報ツールは、ほとんどすべてのコンピューターに関する情報を収集しますが、IBM のコンピューターでこのサービスを使用すると特に詳細な情報が得られます。このサービスは、スタンドアロンおよびネットワークのどちらでも使用することができます。

システム・モニター

システム・モニターを使用すると、プロセッサの使用率、ディスク・スペースの使用率、ECC メモリー・エラーなど、システム内の複数の構成要素の活動を簡単に図式化して監視することができます。これらの便利なモニターは、画面上から消去することも、サイズを変更することも可能であるため、常に必要なモニターだけを表示しておくことができます。システム・モニターのしきい値マネージャーを使用すると、監視対象の構成要素にしきい値レベルを設定することができます。このしきい値を超えると、ユーザーが構成したアラートが生成されます。

データは、システムの始動時から継続的に収集されます。高精度なデータ処理技法により、個々の値に重みが付けられて、複数の並行するサンプルの平均値が算出され、長時間のシステム活動を正確に反映する値として記録されます。この技法を使用すると、膨大なデータ・ファイルを作成することなくシステムの活動記録を維持できます。このサービスは、スタンドアロンおよびネットワークのどちらでも使用することができます。

システム区画アクセス

システム区画アクセスを使用すると、ローカルおよびリモートの両方で、システム区画ファイルの処理を大幅に簡略化することができます。システム区画にある個々のファイルやディレクトリー全体の名前を変更したり、削除したりすることが可能です。個々のファイルについては、名前の変更、削除、およびシステム区画へのコピーを行えます。また、区画全体のバックアップをとったり、復元したり、削除したりすることもできます。このサービスは、システム区画を備えたシステムであれば、スタンドアロンでもネットワークでも使用できます。

システム・プロファイル

システム・プロファイルは、特定のユーザーまたはシステムに関するデータが記録されている便利なノートの働きをします。このノートには、氏名、住所、オフィスの部屋番号や位置、および電話番号などの広範囲なユーザー固有のデータを記入するための定義済みフィールドが多数あります。また、システム・プロファイルには、モデル、シリアル・ナンバー、購入日など、システム情報ツールでは使用することのできないシステム固有のデータを記入するための定義済みフィールドも多数含まれています。また、ユーザーが定義できる「その他」フィールドも多く含まれ、ユーザーや管理者に必要なデータを保持するために使うことができます。

Update Connector マネージャー

Update Connector マネージャーを使用して、お持ちのクライアント・システムで使用可能なさまざまな更新に関する情報を迅速かつ簡単に収集することができます。使用可能な更新がわかったら、Update Connector マネージャーを使用して、そのシステムに対してリモートから更新を行います。更新は個々のシステムにも適用できますし、複数のシステムに複数の更新を適用することもできますが、いずれの場合も Netfinity マネージャーから実行します。また、Update Connector マネージャーを使用して、以前に適用された更新を除去することもできます。さらに、Update Connector マネージャーには、自動的および定期的に更新を検索、適用、または除去するために使用するスケジューラーも組み込まれています。

Web マネージャー構成

Web マネージャー構成サービスを使用すると、Netfinity マネージャー (Web 用) へのアクセスを、ユーザーが指定した TCP/IP ホスト、またはある範囲内のアドレスをもつ TCP/IP ホストに制限することができます。また、Netfinity マネージャー (Web 用) を使用可能または使用禁止にしたり、Netfinity Web サーバー機能が使用する TCP/IP のポート番号を指定したりすることもできます。

OS/2 システムで Netfinity の始動を遅らせるには

Netfinity ネットワーク・インターフェース (NETFBASE.EXE) の自動始動を遅らせた方が都合が良い場合があります。たとえば、開始時刻に制約のあるアプリケーションを正しく始動させたり、ネットワーク操作を開始する前にシステムを完全に構成したりするような場合です。NETFBASE.EXE には、NETFBASE.EXE の始動待機時間の秒数を指定するためのパラメーター (WAIT) があります。

Netfinityのインストール時には、「Netfinity ネットワーク・インターフェース」オブジェクトは始動フォルダーに入れられています。指定された秒数の間、始動前に待機するように Netfinityを構成するには、次のようにします。

- 1 Netfinity ネットワーク・インターフェースが実行されている場合は、遮断します。
- 2 「始動」フォルダーをオープンします。
- 3 マウスの右ボタンを使用して、「Netfinity ネットワーク・インターフェース」オブジェクトをクリックすると、Netfinity ネットワーク・インターフェースのコンテキスト・メニューがオープンします。
- 4 「設定」を選択して、Netfinity ネットワーク・インターフェースの「設定」ノートブックをオープンします。
- 5 「パラメーター」フィールドに次のように入力します。
WAIT:x

 x には、Netfinity ネットワーク・インターフェースが始動前に待機する秒数を指定します。
- 6 Netfinity ネットワーク・インターフェースの「設定」ノートブックをクローズします。

WAIT パラメーターを x に設定すると、システムを始動するたびに、Netfinity ネットワーク・インターフェースは x 秒間待機してから始動します。

注: この機能が使用できるのは、OS/2 が稼働しているシステムの場合だけです。

第10章 詳細情報の入手

Netfinity マネージャー (および Netfinity クライアント・サービス) の詳しい使用方法は、Adobe Acrobat 形式で、CoPilot ApplicationGuide CD の NETFIN¥EN¥DOCS サブディレクトリーに入っています。

DOCS サブディレクトリーには、次のファイルが入っています。

ファイル名	ドキュメント・ファイル	説明
DOCSREAD.ME	DOCSREAD.ME	このディレクトリーに含まれている、Adobe Acrobat で読み取り可能な個々の PDF ファイルについての簡単な説明を含むテキスト・ファイル。
NFMGRQB.PDF	Netfinity Manager Quick Beginnings	Netfinity マネージャーのインストールおよびセットアップ情報。
NFMGRUG.PDF	Netfinity Manager User's Guide	Netfinity マネージャーの詳しい使用方法。
NFMGRCR.PDF	Netfinity Manager Command Reference	Netfinity マネージャーのコマンドライン機能の詳細情報。
NFCSVCQB.PDF	Client Services for Netfinity Manager Quick Beginnings	Netfinity クライアント・サービスのインストールおよびセットアップ情報。
NFSVCUG.PDF	Client Services for Netfinity Manager User's Guide	Netfinity クライアント・サービスの詳しい使用方法。
NFSVCNW.PDF	Client Services for Netfinity Manager for NetWare User's Guide	Netfinity クライアント・サービス (NetWare 版) のインストール、セットアップ、および使用に関する情報。
ASMUPDT.PDF	Advanced System Management Information	拡張システム管理サービスおよび動的接続マネージャー・サービスに関する更新済み情報。これらのサービスは、このバージョンの Netfinity マネージャー 5.2 に組み込まれています。

付録A. インストール・オプション

ここでは、Netfinity を自動的にインストールする方法と、Netfinityをカスタマイズしてインストールする方法を説明します。

自動的にインストールするには

システムに CID 利用可能 (CID は Customization (カスタマイズ)、Installation (インストール)、および distribution (配布) を表します) なソフトウェア配布管理プログラム・ユーティリティ (IBM ネットワーク・トランスポート・サービス/2 に組み込まれている LAN CID など) がある場合、Netfinity インストール・プログラムのコマンドライン・パラメーターおよび応答ファイルを使用して、ネットワーク内のシステムに Netfinity をインストールすることができます。インストールには、最初にインストール元ディレクトリーを作成する必要があります。

Netfinity クライアント・サービスをインストールするためのインストール元ディレクトリーを作成するには、次のようにします。

- 1 プログラム・ファイルのインストール元ディレクトリーを作成します。
- 2 CD-ROM 上の該当する *Netfinity* クライアント・サービスのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、*Netfinity* クライアント・サービス (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成するときは、*Netfinity* クライアント・サービス (OS/2 版) のディレクトリーからすべてのファイルを、作成されたディレクトリーにコピーします。

Netfinityをインストールするためのインストール元ディレクトリーを作成するには、次のようにします。

- 1 プログラム・ファイル用のインストール元ディレクトリーを作成します。
重要:
必ず *Netfinity* クライアント・サービスのソース・ファイルをコピーしてから *Netfinity* マネージャーのソース・ファイルをコピーしてください。これは、*Netfinity* のディレクトリーに、*Netfinity* クライアント・サービスのディレクトリーのファイルを上書きしてしまうファイルがいくつか含まれているためです。このディレクトリーからは、*Netfinity* のインストールしかできません。
- 2 該当する *Netfinity* クライアント・サービスのディレクトリーからファイルをコピーします。
たとえば、*Netfinity* マネージャー・プログラム (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成するときは、*Netfinity* クライアント・サービス (OS/2 版) のディレクトリーから、すべてのファイルをコピーします。
- 3 該当する *Netfinity* マネージャーのディレクトリーからファイルをコピーします。

たとえば、Netfinity マネージャー・プログラム (OS/2 版) を配布するためのインストール元ディレクトリーを作成するときは、*Netfinity* マネージャー (OS/2 版) のディレクトリーからすべてのファイルをコピーします。

インストール元ディレクトリーを作成した後、応答ファイルと、Netfinity のインストール・プログラムのコマンドライン・パラメーターを使用します。Netfinity のインストール・プログラムは、次のコマンドライン・パラメーターをサポートしています。

- /R:** *drive+path+filename* 応答ファイルのドライブ、パス、およびファイル名を指定します。含まれるパラメーターの応答ファイルの例が注釈付きで NETFBASE.RSP ファイル (Netfinity がインストールされているディレクトリーにあります) にあるので、参照してください。
- /S:** *drive+path* インストール 元 のドライブとパスを指定します。これは CD-ROM からファイルをコピーした際のコピー先ディレクトリーです。
- /T:** *drive* インストール 先 のドライブを指定します。デフォルトは現行の始動ドライブです。
- /TU:** *drive+path* 更新する CONFIG.SYS ファイルのドライブとパスを指定します。デフォルトでは、/T パラメーターで指定されたドライブ (または始動ドライブ) のルート・ディレクトリー内の CONFIG.SYS が変更されるようになっていきます。このパラメーターは、応答ファイルの *ChangeConfig* パラメーターが「FALSE」の場合には無視されます。

たとえば、次の行は、

```
NETFINST /R:NETFBASE.RSP /S:Y:¥NETFIN  
/T:C /TU:D:¥
```

応答ファイル NETFBASE.RSP 内のオプションを使用して、ディレクトリー Y:¥NETFIN からドライブ C: (ファイルのインストール先のディレクトリーは応答ファイルからとられます) に Netfinity をインストールし、さらに、D:¥ディレクトリー内の CONFIG.SYS ファイルを変更します。

注: CID を使用可能なソフトウェア配布管理プログラムの使用方法については、個々の CID 使用可能製品に付属の資料を参照してください。

カスタマイズしてインストールするには

安全保護を考慮すると、すべてのユーザーがすべてのサービスへアクセスする必要があるとは限りません。ユーザー・アクセスは、一部のサービスをインストールしないようにカスタマイズしてインストールすることによって、制限することができます。

カスタマイズしてインストールするには、INSTALL.INI ファイルを編集する必要があります。たとえば、Netfinity マネージャー (Windows 95 版または NT 版) をカスタマイズしてインストールするには、Netfinity マネージャー・ディレクトリーにある INSTALL.INI ファイルを編集します。

INSTALL.INI ファイルには次の線で区切られた 3 つのセクションがあります。

[==]

最初のセクションには、インストール時に選択できるインストール構成が含まれます。選択項目は最大で 8 つです。各選択項目はそれぞれ 2 行ずつです。最初の行は、インストール構成ラジオ・ボタンの隣に表示されるテキストです。もう一方の行は、インストールでこの選択項目が選択されるときにインストールされる、3 番目のセクション内のオプション・リストです。

次に例を示します。

```
;IBM SysMgt Install Script, Version 2 (Do not remove this comment line)
Netfinity Manager Installation [Manager 16900]
    Advanced System Management Support [ServProc 450]
    Capacity Manager Enhancement [CapMgt 5600]
    Remote Workstation Control [RWC 2000]
    World Wide Web Enhancement (TCPIP Required) [WebManager 3000] IsTcpi
[==]
Netfinity Manager CD for Windows 95/NT
[==]
NetFinity Admin
NULL Manager
    CL 0 1 NETFBASE.EXE
    CCL 0 1 NETDOM.INI
    CCL 0 1 NETNODES.INI
    CCL 0 1 INSTALL.BAT
    CCL 0 1 NETFINST.EXE
    CCL 0 1 INSTALL.INI
    CCL 0 1 WININST.HLP
    CL 0 1 APCKINST.DLL
;Screen Capture GUI
;NULL Manager
;    CL 0 1 SAVEG.EXE
;    CL 0 1 SAVEG.HLP
```

この INSTALL.INI は、システム管理、キャパシティー・マネージャーリモート・ワークステーション制御、および Netfinity WWW 拡張機能を同時にインストールする、Netfinity マネージャー・インストール構成を作成します。

2 番目のセクションには、このインストール・スクリプトが使用する CD-ROM の名前が含まれます。

3 番目のセクションには、インストール可能なオプションのリストが含まれます。これらは、最初のセクションの選択項目によって選択されるオプションです。これらのオプションには 1 から順に番号が付けられ、オプションが挿入されると、それ以外のすべてのオプションの番号が変わります。各オプションは次の形式をとります。

オプション名

Dll エントリー・ポイント

オプション・ファイル

オプション・ファイル

...

インストール・コマンド

インストール・コマンド

...

オプション名 インストール・プログラムによる識別用注釈。すべてのオプションにはそれぞれ異なるオプション名が付けられている必要があります。これは識別の目的だけに使用されます。

Dll エントリー・ポイント あるオプションがインストール先のシステムで有効かどうかを判別するために使用します。ほとんどの場合、これは予約文字列の「NULL」となります。

インストールのカスタマイズを一番簡単に行う方法は、インストールから除去したいサービスの前に単純にセミコロンを付ける方法です。

特定のセクションに項目を 1 行追加するには、次の例に示す形式で、必要なすべての項目情報を追加します。

追加前:

```
Screen Capture GUI
NULL Manager
  CL 0 1 SAVEG.EXE
  CL 0 1 SAVEG.HLP
```

追加後:

```
Screen Capture GUI
NULL Manager
  CL 0 1 SAVEG.EXE
  CL 0 1 SAVEG.HLP
  CL 0 1 CUSTOM.INI
```


IBM®

部品番号: 27L3286

Printed in Japan



27L3286